

うすい日出男の〈こくせいふかん〉の目 番外編

特別インタビュー—— 今、国会は改めるべきは改めつつ、肝腎の憲法論議を！

インタビュー：石原裕久広報副委員長
(門山衆議院議員秘書)

昨年来、いわゆる“モリカケ”や自衛隊日報問題などで国会が度々停滞し、憲法改正など重要法案の審議が一向に進まない状況が続いている。与党・野党にかかわらず、これでは国会議員が本来の役割を果たしていないことになる。この状況を憂える元衆議院議員で二度の大臣経験(防衛庁長官＝現防衛大臣、法務大臣)もある臼井先生に現在の心境とあるべき指針を石原裕久広報副委員長が聞いた。(インタビューは4月26日、於：鮎割煮みどり)

石原 昨今の国政の状況は、モリカケ問題や日報問題などによって国会審議がまともに行えず、混迷を深めていると感じます。大臣経験も含めて長く国会議員を続けられた臼井先生から見て、今の国会はどのように映りますか。

臼井 国政の仕事には、重要なこととさほど重要ではないこと、緊急性のあるものとさほど緊急ではないものなどがあり、その優先順位に沿って、長い間、慣習としてやってきたことが問題視され、政権が責められているのです。

防衛庁長官を経験した立場から自衛隊の日報問題についていえば、外部に出してよい文書と出してはいけない文書などをもっとはっきり決めておくことが重要です。外部に漏れたら大変なことになる文書もありますからね。

しかし、それを含めて昨年来、野党から責め続けられている問題は、私に言わせればもはや決着がついているといえるのです。もうそろそろ落としどころを決めてよ

い類いの問題ではないかと考えています。

今は、米中問題や拉致家族を含めた朝鮮半島の問題など、世界に目を向け



INDEX

うすい日出男の〈こくせいふかん〉の目	
番外編	1～2
親睦委員会主催・春の宴	2
会員企業訪問	3
例会委員会報告・私の近況	4
スケジュール・編集後記	4

ば物事はどんどん動いていますし、国内では憲法改正の議論が置き去りにされている。重要度が高く緊急性もあるこれら優先順位の高い問題が目白押しなので、そちらに目を向け、議論すべきじゃないかと思っています。

石原 優先順位が違うんじゃないかというご指摘ですね。私もそう思います。たとえば予算委員会について、いつも感じるのですが、肝腎の予算についての議論はさっぱり行わず、政局的な論争ばかりに時間を費やしています。これには、与野党の時間配分の問題もあると思います。本会議や予算委員会などでの与党の質問時間配分が少ないので、うちの門山(宏哲衆議院議員、3期)が質問に立つ機会がなかなか回ってきません。

選挙区の有権者にとって、国会中継のテレビ画面に地元の議員がちっとも映らないというのは淋しい話です。国会における与党議員のあり方、野党議員のあり方について、臼井先生はどうお考えでしょうか。

臼井 全大臣が出席しなければならない委員会というのは、予算委員会と決算委員会だけで、他の委員会は所轄の大臣が出席すればよいことになっています。それだけこの二つの委員会は重要度が高いわけで、与党議員も野党議員も大切に考えなければなりません。

したがって、この二つの委員会で議論する問題はいつでも大切なことは間違いありませんが、だからといって、さして緊急でもなく、重要度も薄い問題をいつまでもネチネチと追及する委員会であってはならない。その意味で今の国会は行き過ぎているのではないかと思います。

最も優先すべきは憲法改正の議論

石原 今、国会で議論すべき最も優先順位の高い問題は何でしょうか。

臼井 私に言わせれば、憲法改正の問題です。憲法擁護派の人たちは、「70年間自分たちが守ってきた憲法」という言い方をしますが、それはまったく誤りです。国民が守ってきたというのではなく、憲法改正する環境が70



年に亘って整ってこなかっただけの話です。すなわち、衆参共に3分の2を超える議員の賛成によ

って発議することができなかったというのが70年間改正せずに続いてきた一番の理由なのです。

ところが今、70年目にして初めて、改正する要件が整っているのです。この機会を逃せば、いつまた環境が整うかわからない。変えなければならぬ一番重要な点は、憲法の中に自衛隊を位置づけることと、緊急事態対策を盛り込むことです。今、国会はこの問題に絞って議論すべきときで、ぜひ3分の2超の発議を実現すべく頑張ってくださいたいですね。

石原 憲法審査会が実質的に開かれていない事態が続いています。実は門山が先月（3月）から憲法審査会のメンバーに入ったのです。審査会は動いていないのですが、内々に議論は進めており、自民党としては改憲のポイントを4つほどに絞ってきています。①憲法9条、②緊急事態対応、③1票の格差、④教育の充実の4点です。もちろん発議するには、ある程度他党との合意のもとで進める必要があると思いますが。

臼井 政界を見渡して憲法改正ができるのは、安倍晋三しかないのです。自民党で意見がまとまったら、小異を捨て国民の皆様にご理解いただけるように、我々は協力していかなければなりません。そして、議論を十分し尽くしたと判断したら、見切り発車をしなければならない場

面も出てくると思います。他党との合意ができればそれに越したことはないのですが、時が来たらある程度押し切らないと、憲法はいびつな状態のままいつまでも改正されないことになります。

石原 実際、発議をして国民投票できるのはいつ頃だと読んでいらっしゃるでしょうか。

臼井 来年の参議院選挙のときに同時に憲法改正の国民投票ができればと思っていましたが、今は国会は肝腎の安倍さん自体の問題でトラブってしまい、改憲論議にブレーキがかかってしまったのは困ったことです。

石原 自民党の総裁選挙がどうなるのか、ちょっと微妙な情勢になってきましたね。

臼井 そうですね。であるならばなおさら、安倍さんが総理大臣のうちに参院選と同時の発議・国民投票という道筋をしっかりとつくらなければならないのです。

石原 そのためにはモリカケや財務省の問題を早く収束させなければなりませんね。

臼井 官僚の長い歴史の中で、慣習として長く続けてきたことを改めなければならない点はあると思います。しかし、一事が万事で改めるべきことではない他のことまで攻め込まれていることが問題なのです。本来、忖度というのはあってはならないと考えますが、仮に忖度があったとしてもそこに攻め込むことは本来できないのです。ですが、いろいろな問題が官僚の中から次々に出てくるも



のだから、ダラダラと続いている。繰り返しますが、これらの問題を早く収束させて、優先順位の高い問題に取り組んでいただきたいと切に思います。（文責：奥平）

親睦委員会主催・春の宴（BBQ） 平成30年4月7日（土）

於：青葉の森公園

4月7日（土）、青葉の森公園のバーベキュー場にて、親睦委員会の主催によるお花見・バーベキュー大会が行われました。当日はやや肌寒い中ではありましたが、多くの会員の方と、臼井日出男先生のご家族をはじめ、会員の家族の皆様も多く参加され、5つのテーブルに分かれてバーベキューを楽しみました。

桜の開花時期が例年より早かったため、ソメイヨシノはあらかた散ってしまいましたが、代わりに八重桜がちょうど満開となって咲き誇り、お花見としてもなかなか風情のあるものとなりました。

食材と飲み物の手配など、準備にご尽力いただきました親睦委員会の皆様どうもありがとうございました。

（石原裕久 記）



第27回 有限会社 マリエ

経営哲学は「潰さないために何をすべきか」

でも、好きな言葉は「ケセラセラ」

書く材料が多い経営者だな……異例の2回取材を終えたあとの筆者の感想である。一貫して謙虚に、詳しく、淡々と、しかし熱い思いを込めて語ってくれた。

月星会のほぼすべての行事に生花の世話をしてくれる花屋さん、マリエの産方恒好社長のことである。

なぜ2回の取材に及んだのか。1回目は、創業（1993年）から今日までの流れと出来事を語ってくれた。聞き間違いがないようにと丁寧に話してくれる姿勢に、産方さんの人に対する優しさを感じた。

興味深い話の連続で、あっという間に約束の時間が過ぎてしまったのに、何か物足りない。書けばすらすら書けるだろうが、肝腎の「思い」を捉えていない。そこで急ぎよ、2回目をお願いした次第である。

千葉三越内のショップ展開

産方さんが24年前に花屋を始めた背景を辿ると、生まれ育った八街の実家に遡る。実家はスイカ農家だったが、産方さんが高校の時に長男の兄がシクラメンの研修に行き、スイカ畑の一角に温室を作ってシクラメンの栽培を始めた。

産方さんは、兄が遠出をするときなどに「恒好やっておいでくれ」と度々世話を頼まれたそうで、これが仕事として花を意識した最初のエピソードだと言う。

そのあと、生花商売の模擬体験もしている。

「高校の学園祭で生花を仕入れて来場者に売ってみたら、約3万円売れて3分の1の粗利が出たのです。なんだか嬉しかったのですね」

儲けたお金が自分の懐に入るわけではないだろうが、自分たちの努力で商売が成り立った喜びを感じたのだろう。

この2件のエピソード以降、学生時代に兄の手伝いをするなど生花との関りが何かと増えていき、生花店マリエを出店する背景が徐々に形成されていく。

産方さんが花のビジネスに本気になり、生涯の仕事として意識し始めたのは、バブル前の1980年から行われている千葉県フラワーフェスティバルに、生産者として兄とともに関わってからである。

フラワーフェスティバルは、都道府県別出荷額が第3位の千葉県にふさわしい花のイベントだった。このイベントに最も熱を入れたのが千葉三越（当時）で、社長が「フェスティバルを機会に花を売れ、ショップを展開せよ」の号令を出すほどの力の入れ様だった。

千葉三越は当時、オープンしたばかりの千葉そごうと激し

く客の奪い合いをしている最中で、千葉県らしさを打ち出して県内のお客を惹きつけようと考えたのだろう。

千葉三越の担当者は、生産者組合を中心にショップ展開の運営主体を模索。白羽の矢が立ったのが、生産者であり、当時「ハルディン」という生花店も個人で経営していた産方さんの兄だった。

ところが、兄は光栄に思いながらもデパートでのショップ展開は自分に合わないとい、この話に乗らず、弟の産方さんに「おまえ、やらないか」と振ってきた。

産方さんに断る理由がなく快諾。千葉三越担当者の様々な支援を得ながら、地下2階に30坪のフラワーショップをオープンした。店の名前は「花と緑のプロショップ・ハルディン」である。

運営主体は兄になり、産方さんが「店長」という立場になるが、店の運営はほとんど任されていた。

「毎週作る千葉三越のチラシの1スペースを店のために空けてくれたのでお客様の入りは上々でした。チラシ作りの作業は大変でしたが」

飾らない経営者

「千葉三越の店は、初めは調子がよかったです。次第に厳しくなり、最後は7~8坪のスペースになったところで撤退し、同時に兄からの独立を決意しました。そして、マリエを開業したのです。でも、三越の経験はありがたかったです。今、花のナンデモヤだと自負していますが、下地になっているのは三越の経験です」

かくして1993年に中央区長洲にマリエをオープンし、現在に至っている。

産方さんが信条にしている言葉はいくつかあるが、その一つは小学校時代に学んだ「人の話をよく聞くこと」と「一期一会」だと言う。「よく聞いてくれる」が「よく話す」人だとも思う。聞くときも話すときも自分を飾らない。産方さんと飲みながら話をしていると、時の流れを忘れてしまう。まさに「一期一会」を地で行っている気もする。人との出会い、人との共同作業が好きなのだを感じる。出会いと交わり。そのことの多くの場合に、「花」が介在しているようだ。

「臼井先生の奥様をはじめ月星会やその関係者にはたくさん助けられました」とシャクヤク（帰りにお土産にいただいた花）のような優しい笑顔を向けてくれた。

（取材・文／奥平。産方さんの一言・番外編「これまで潰れないために頑張ってきた。それが私の本音の経営哲学です。好きな言葉はケセラセラです。がんばれば、どんな苦難も何とかなるものです」）



例会委員会報告

3月例会 平成30年3月22日(木)

於：鮪割烹みどり

「25歳、縁もゆかりもない千葉に来て！」と題して岩田代三会員に講演していただきました。

自らの営業センスと機動力を活かし、大手企業に打ち勝ち事業を拡大。順調な業績で経営されていると思いきや幾多の危機がありそれを乗り越える力、胆力に経営者の底力を感じました。

ご長男で現社長の直人さんもサプライズ参加され盛り上がりました。参加者は会員32名でした(ビジターなし)。



4月例会 平成30年4月26日(木)

於：鮪割烹みどり

「笑いヨガ」公認国際ティーチャー・荒尾紀倫先生をお招きして理由なく笑うことの健康への効用と、呼吸法による身体の活性化について講演していただきました。

他人が意味なく笑う姿を見るとこちらも可笑しくなり笑うことがわかりました。先生が意味なく笑うと会場は笑いにつつまれて幸せな気分。この日笑うことで参加者の多くのガン細胞が死滅したことでしょう。

「笑う」ことの身体と精神における健康への効果が実感できました。参加者は、会員31名でした(ビジターなし)。



会員異動 退会

鶴川 光一氏	逝去のため
長谷川 洋氏	逝去のため
堀口 広子氏	廃業のため
木内 一晴氏	社長交代のため
斉藤 友光氏	会費未納会則4条による

私の近況

山口金吾さんの巻

あの頃にタイムスリップしたい

今から28年前の1990年春、長男が小学校6年生になった記念にと、男同士2人で思い切り5泊6日で羽田から石垣島に飛びました。

泊り先は川平湾にある大浜荘です。古くて設備が良くないのですが、とても家族的で人気があり、日本中からたくさんの若者たちが海にやってきました。



朝方にスキューバダイビングで海に潜ることになりました。親も子も初めての経験なのでとても緊張しましたが、背中にボンベを背負い、体にオモリを付け、ドボンと海に入れば別世界。

めったに見られない、ナポレオン、海ガメ、カラフルなエンゼルフィッシュ、まるで絵に出てくるような竜宮城のようでした。子供はお兄さんたちとすっかり馴染み、子供の順応性の早さに驚き、また安心もしました。

次の日、フェリーで山猫がいるという西表島に向かったり、水牛に乗って由布島に寄ったり、星の砂で有名な竹富島の浜辺を歩いたりしました。貸オートバイで子供を後ろに乗せ何度も何度も島を走りました……。

そんな子供も今は40才になりました。そして、孫もちょうど6年生になりました。このような体験(旅行)を今想起こすと私にあの頃の若さをくれたり、元気にしてくれたり、一生の財産だと思っています。できれば子供も孫も同じ体験をしてもらいたい。できれば私もあの頃にタイムスリップしたい。今は、そんな近況です。

6・7・8月のスケジュール

6/2(土)	平成30年度定時総会 / 懇親会 18時00分開会 参加費 会員 無料 会場 ホテルグリーンタワー幕張 3F
6/6(水)	役員会 18時00分開会 ホテル菜の花
6/28(木)	夕食例会 18時30分開会 鮪割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円
7/4(水)	役員会 18時00分開会 ホテル菜の花
7/26(木)	夕食例会 18時30分開会 鮪割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円
7/27(金)	親睦委員会行事 場所 海浜幕張公園 千葉市花火大会見学 詳細未定
8/1(水)	役員会 18時00分開会 ホテル菜の花
8/23(木)	夕食例会 18時30分開会 鮪割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円

編集後記

2回にわたって産方相談役と向き合い、これまでの来し方をお聴きました。エピソードが濃く、かつ多すぎるため、聴いた話の10%くらいしか書けませんでした。もっともお聴きしたことを全部書いたら、単行本100ページ分になってしまうので仕方がないですね。でも、う～んザンネン。できることなら、また何か別の機会に産方さんの歩んだ道程とその時々のお思いを皆さんにご披露したいと思います。(興平)